

N-アッセイ **TIA プレアルブミン** ニットーボー
プレアルブミン測定用試薬 (免疫比濁法)

N-アッセイ **TIA Tf-H** ニットーボー
トランスフェリン測定用試薬 (免疫比濁法)

N-アッセイ **LA RBP** ニットーボー
レチノール結合蛋白測定用試薬 (ラテックス凝集比濁法)

【RTP (rapid turnover protein) の特長】

1. 半減期が短く代謝回転率が速い蛋白です。
2. 栄養状態を鋭敏に反映します。
3. 短期的な栄養状態の管理に有用です。

健康・快適な生活文化を創造する **Nittobo**

はじめに

プレアルブミン（トランスサイレチン）、トランスフェリン（Tf）、レチノール結合蛋白（RBP）はアルブミンに比べて半減期が短く、代謝回転率が速い蛋白で、rapid turnover protein (RTP) と呼ばれています。これらの蛋白は、近年栄養状態を評価する指標として注目を集めており、特に手術後等の代謝状態の早い状況では、栄養状態を鋭敏に反映しますので、その有用性が認められています。

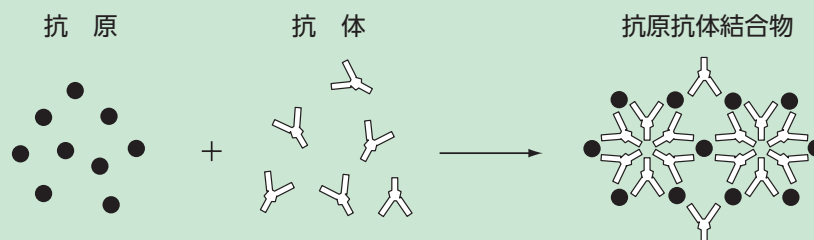
N-アッセイ TIA プレアルブミン ニットーボー及び N-アッセイ TIA Tf-H ニットーボーは免疫比濁法、N-アッセイ LA RBP ニットーボーはラテックス凝集比濁法を採用しており、汎用自動分析装置用として操作が非常に簡単になっています。

栄養アセスメント蛋白の特徴

項目	分子量	半減期	機能
アルブミン	66,000	21日	各種物質の運搬
プレアルブミン(トランスサイレチン)	55,000	2日	サイロキシンの輸送 RBP との結合
トランスフェリン (Tf)	76,500	7日	鉄の輸送
レチノール結合蛋白 (RBP)	21,000	0.5日	ビタミン A の輸送

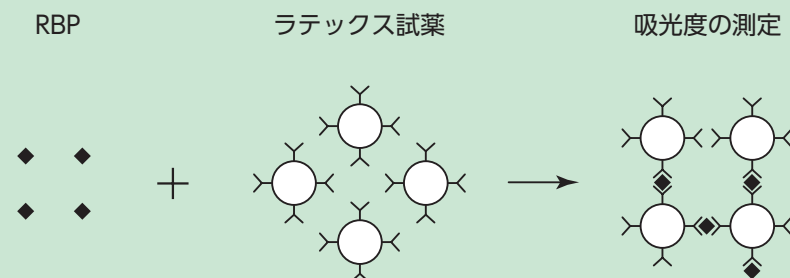
測定原理

プレアルブミン、トランスフェリン



検体に抗ヒトプレアルブミン（トランスフェリン）ヤギ血清を混合すると、プレアルブミン（トランスフェリン）と抗体が結合し、凝集物を生成します。この凝集を吸光度の変化量として捉えることにより、濃度既知の標準液を用いた検量線から検体中のプレアルブミン（トランスフェリン）を定量します。

RBP



検体に抗ヒトRBPウサギ抗体を感作させたラテックス粒子の浮遊液を混合すると、RBPとラテックス粒子表面の抗ヒトRBPウサギ抗体が結合し、ラテックス粒子が凝集します。この凝集を吸光度の変化量として捉えることにより、濃度既知の標準液を用いた検量線から検体中のRBPを定量します。

N-アッセイ TIA プレアルブミン ニットーボー

プレアルブミン測定用試薬 (免疫比濁法)

参考データ

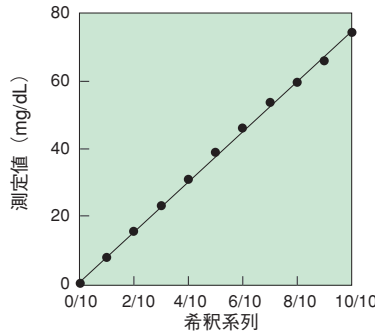
(自社データ、日立 7170S 形自動分析装置を用いて測定)

同時再現性

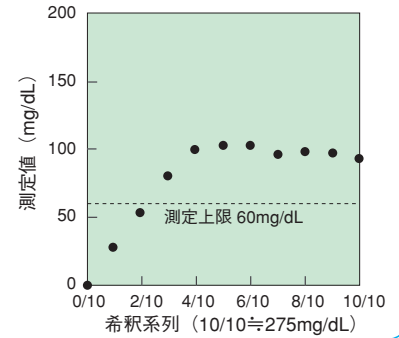
単位: mg/dL

No.	血清 I	血清 II
1	22.7	42.6
2	22.5	42.5
3	22.5	41.9
4	21.9	43.1
5	21.8	42.8
6	22.2	42.0
7	22.4	42.0
8	22.4	42.6
9	22.4	42.1
10	22.5	41.6
11	22.4	43.3
12	22.9	41.9
13	22.5	43.1
14	22.1	41.6
15	22.5	42.4
16	22.1	40.8
17	22.3	41.8
18	22.4	41.8
19	22.3	41.2
20	22.6	42.1
データ数	20	20
最大値	22.9	43.3
最小値	21.8	40.8
範囲	1.1	2.5
平均値	22.37	42.16
標準偏差	0.26	0.64
変動係数	1.16%	1.52%

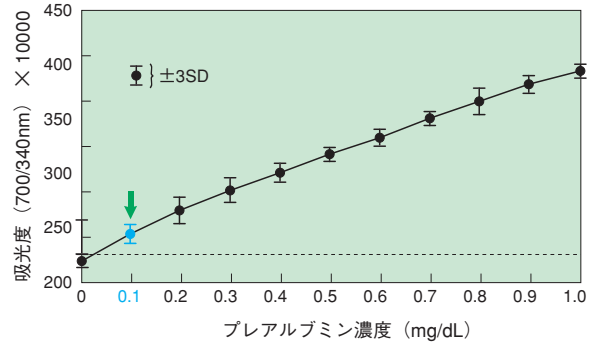
直線性



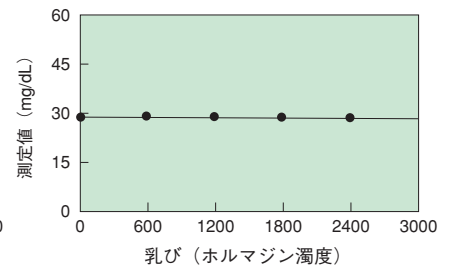
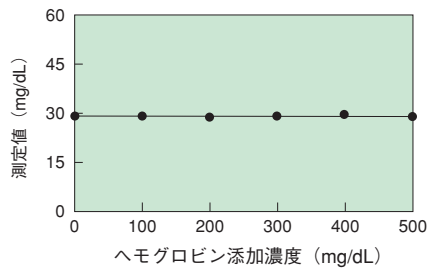
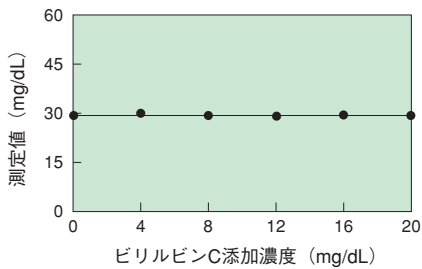
抗原過剰域での反応



検出限界



共存物質の影響



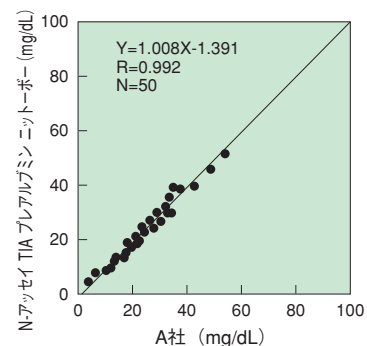
参考基準範囲

健常人の参考基準範囲として、以下のような報告がありますので参考して下さい。なお、基準範囲は各施設において設定して下さい。

男性 23~42mg/dL
女性 22~34mg/dL

[臨床病理 (特集101)、207-209 (1996)]

相関性



N-アッセイ TIA Tf-H ニットボー

トランスフェリン測定用試薬 (免疫比濁法)

参考データ

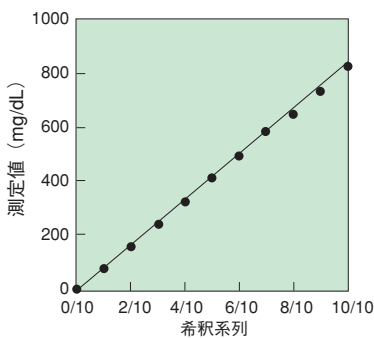
(自社データ、日立 7170S 形自動分析装置を用いて測定)

同時再現性

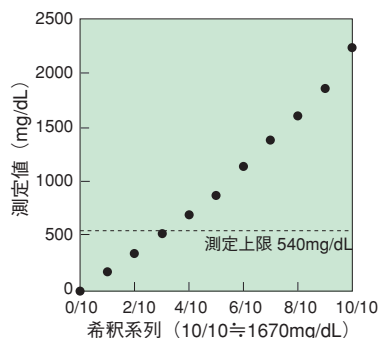
単位: mg/dL

No.	血清 I	血清 II
1	259	473
2	254	473
3	261	471
4	259	465
5	258	463
6	257	473
7	256	468
8	255	471
9	255	473
10	254	460
11	261	474
12	260	475
13	252	469
14	257	481
15	254	467
16	256	460
17	252	465
18	252	462
19	255	469
20	259	469
データ数	20	20
最大値	261	481
最小値	252	460
範囲	9	21
平均値	256.3	469.1
標準偏差	2.9	5.4
変動係数	1.13%	1.15%

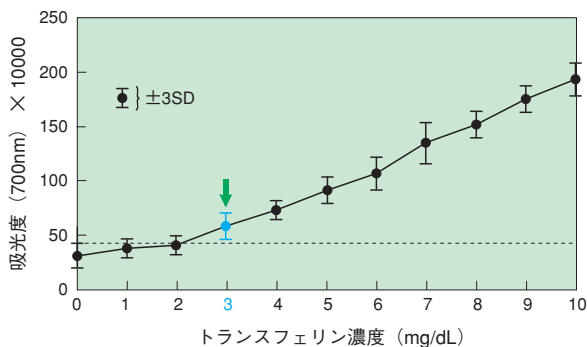
直線性



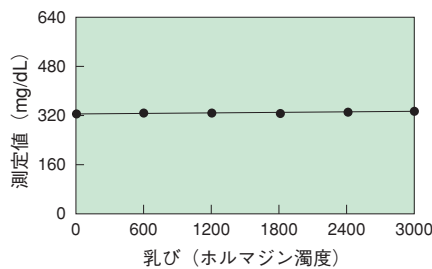
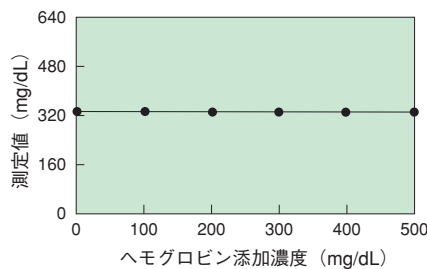
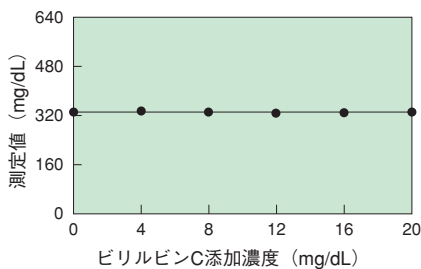
抗原過剰域での反応



検出限界



共存物質の影響



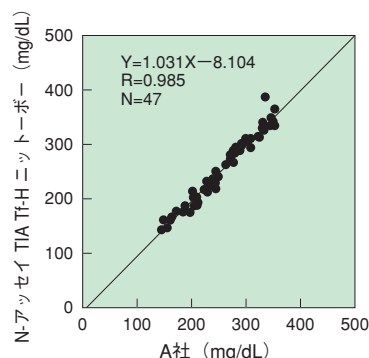
参考基準範囲

健康人の参考基準範囲として、以下のような報告がありますので参考にして下さい。なお、基準範囲は各施設において設定して下さい。

男性 190~300mg/dL
女性 200~340mg/dL

[臨床病理 (特集101)、207-209 (1996)]

相関性



N-アッセイ *LA RBP* ニットボー

レチノール結合蛋白測定用試薬 (ラテックス凝集比濁法)

参考データ

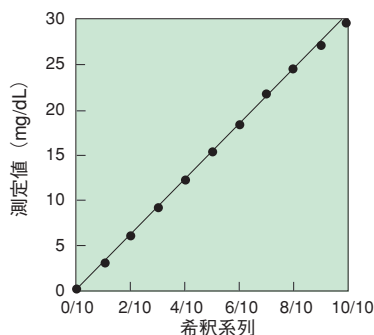
(自社データ、日立 7170S 形自動分析装置を用いて測定)

同時再現性

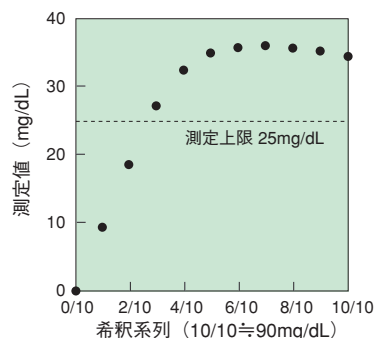
単位: mg/dL

No.	血清 I	血清 II
1	3.1	6.3
2	3.1	6.3
3	3.2	6.3
4	3.1	6.3
5	3.1	6.3
6	3.1	6.3
7	3.1	6.3
8	3.1	6.3
9	3.1	6.3
10	3.1	6.2
11	3.1	6.3
12	3.1	6.2
13	3.1	6.3
14	3.1	6.3
15	3.1	6.3
16	3.1	6.3
17	3.1	6.3
18	3.1	6.3
19	3.1	6.3
20	3.1	6.3
データ数	20	20
最大値	3.2	6.3
最小値	3.1	6.2
範囲	0.1	0.1
平均値	3.11	6.29
標準偏差	0.02	0.03
変動係数	0.64%	0.48%

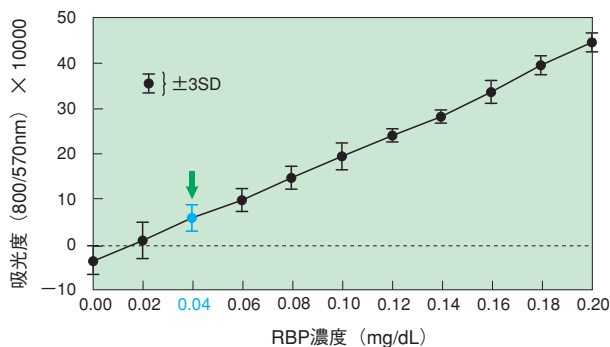
直線性



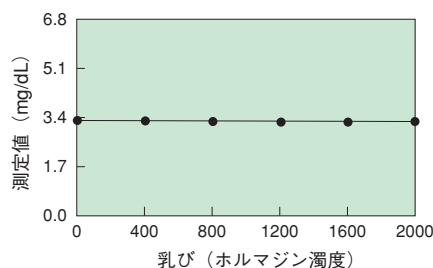
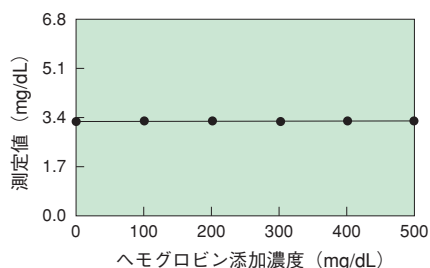
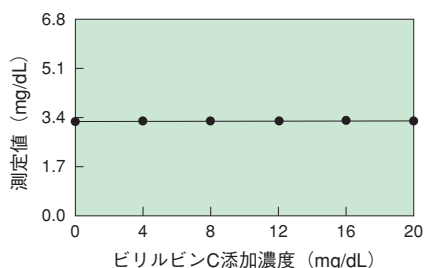
抗原過剰域での反応



検出限界



共存物質の影響



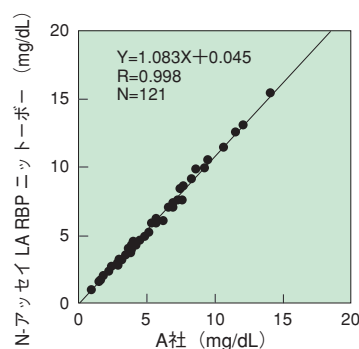
参考基準範囲

健常人の参考基準範囲として、以下のような報告がありますので参考にして下さい。なお、基準範囲は各施設において設定して下さい。

男性 2.7~6.0mg/dL
女性 1.9~4.6mg/dL

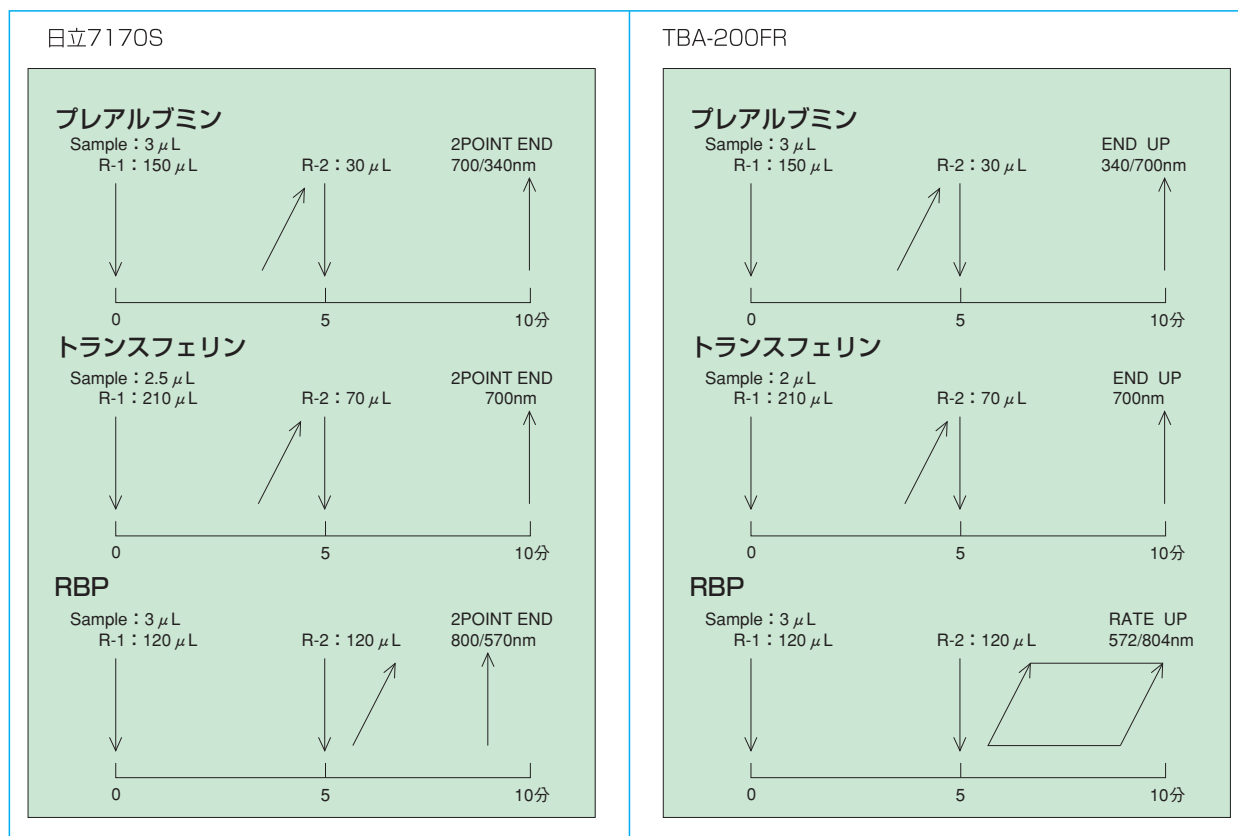
[臨床病理、57(3)、195-199 (2009)]

相関性



自動分析装置への適応例

各自動分析装置への適応は、別途パラメーターをご請求ください。



製品案内

項目	商品名	測定原理	商品コード	包装規格	
プレアルブミン	N- アッセイ TIA プレアルブミン ニットーポー	免疫比濁法	14353013	セット	R-1 : 20mL × 2 R-2 : 8 mL × 1
	プレアルブミン標準液		9495331	標準液	1mL × 6 濃度
トランスフェリン	N- アッセイ TIA Tf-H ニットーポー	免疫比濁法	1434101	セット	R-1 : 20mL × 3 R-2 : 10mL × 2
	マルチ V-SH2		9490533	標準液	1mL × 6 濃度※
RBP	N- アッセイ LA RBP ニットーポー	ラテックス 凝集比濁法	15318014	セットD4	R-1 : 10mL × 2 R-2 : 10mL × 2
	RBP 標準液		9591831	標準液	1mL × 6 濃度

※使用濃度は5濃度

製造販売元：**ニットーポーメディカル株式会社**

〒963-8061 福島県郡山市富久山町福原字塩島1番地

問い合わせ先 ニットーポーメディカル株式会社

TEL.03-4582-5420 FAX.03-3238-4590